

科目名	マクロ経済学 I	科目分類	■専門科目群 □総合科目群		
			経済学科	□必修 ■選択	
			学科	□必修 □選択	
英文表記	Macro Economics I	開講年次	■1年 □2年 □3年 □4年		
		開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中		
ふりがな	ふかさわ やすお	実務家教員 担当科目	○	修得単位	2単位
担当者名	深澤 太郎	実施方法	■対面のみ □遠隔のみ □対面・遠隔併用		
授業のテーマ	マクロ経済学の基礎をじっくり学びます。				
到達目標	この授業の単位を修得した場合、次のような知識・能力を修得できます。 1. 日本経済の経済指標等の実際のデータに基づき、マクロ経済学の基礎知識が習得できる。 2. 上記により、日本経済新聞の経済関係の記事の理解度が、大幅に上昇し、社会人と求められる水準に届く。				
授業概要	受講者数にも左右されるが、理想としては、事前に教科書、参考資料に目を通してもらい、授業中には可能な限り、各項目についての質問を行いたい。経済指標等のデータに基づき理論を確認し、基礎知識を取得した上で、自ら考える姿勢を身につけてもらいたい。				
授業計画	(授業において配布された資料は、すべて試験の範囲に含まれる)				
第1回	イントロダクション：現在の世界経済の外観、日本経済の現在の立ち位置、決定的な人口問題			配布資料	
第2回	マクロ経済学とは何か？「日本の失われた30年」とマクロ経済学、 数学的な基礎（数列、ネピアのe、対数等）			配布資料	
第3回	GDPとは何か（生産＝所得の概念）		テキスト 第2章		
第4回	GDPとは何か（生産＝支出の概念）		テキスト 第2章		
第5回	名目値と実質値（デフレーターとは？）		テキスト 第2章		
第6回	取引利得について、GDPとGDI			配布資料	
第7回	金融市場 金利（現在価値の考え方、スポットレートとフォワードレート、債券価格の計算）			配布資料	
第8回	金融市場 株価（財務指標とPER、PBR）			配布資料	
第9回	中間テスト（持ち込み可） 回答と解説				
第10回	閉鎖経済の短期モデルの展開①（短期モデルに基本的な考え方と乗数効果のメカニズム）			テキスト 第6章	
第11回	閉鎖経済の短期モデルの展開②（財市場の数量調整と貨幣市場の需給調節）			テキスト 第6章	
第12回	閉鎖経済の短期モデルの展開③（IS-LMモデルにおける財政・金融政策と右下がりの需要曲線）			テキスト 第6章	
第13回	現在の日本の金融政策			配布資料	
第14回	経常収支と純投資と国民貯蓄の関係（政府の巨額財政赤字によって、危い状態が続く日本経済のマクロバランス）			配布資料	
第15回	まとめ				
第16回	定期試験(持ち込み不可)、期末テスト(持ち込み可)				
授業時間外の学習	テキストの該当箇所及び事前に配布する資料は前もって通読し、疑問点があれば質問すること（0.5～1時間）。確認のための復習をし、疑問点があれば翌週に質問すること（0.5～1.0時間）。				
履修条件 受講のルール	2年時以降には、マクロ経済学Ⅱを受講すること。マクロ経済学Ⅱの受講時には、基礎数学Ⅰ、基礎数学Ⅱの単位を履修済のこと。 テキストを必ず購入してください。また、適宜資料を配布しますが、休んだ場合は研究室に取りに来てください。 受講者の理解度等を考慮して、シラバスを変更する場合があります。				
パソコン使用について	なお、受講者のパソコン保有台数等をヒアリングし、可能ならば授業中にパソコンを使用して、				

	経済データの分析、グラフ作成を行う場合があります。
テキスト	「マクロ経済学（有斐閣、2016年）」 斎藤誠ほか3名
参考文献・資料	第3回授業「金融危機の本質シリーズ 補足数学簡単解説 I」 深澤泰郎 第7回授業：「金融商品情報（一口知識）（1）スポットレートとディスカウントファクター、同（2）フォワードレートについて」 深澤泰郎 第14回授業：「日本経済と財政危機の本質シリーズ 5 アベノミクスは間違った振り、本当は狙い通り！」 深澤泰郎 その他、授業前に配布するペーパー
成績評価の方法	中間テスト（40%）、期末テスト（40%）、定期試験（10%）、その他（10%） 出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	火曜日 13:00～14:30 14:40～16:10 金曜日 13:00～14:30 14:40～16:10
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	長年、金融機関、学校等で投資家として長期投資を行ってきました。その中で、市場の長期予想を行ってきましたが、国としての日本経済の先行きはかなり暗いと思います。ただ、マクロ経済としては良くならないとしても、皆さんのような若者が、個人として人口減少下で生き抜く方法は必ずあります。そのことも授業の中でお話ししたいと思います。
学生へのメッセージ	マクロ経済学は、日本経済を理解するための必須のツールです。そして日本経済を理解していることが、社会人として求められます。